

「まごころ通信」

事務局 (書記) 新井国彦

〒370-0042 高崎市貝沢町 4 4 7

TEL 027-361-9731

第 80 回「まごころ塾」は、7 月 5 日 (土) 午後 6 時 30 分～高崎市立中尾中学校会議室で行いました。

今回は、当塾の最高顧問である鍵山秀三郎さんにご講演いただきました。塾発足時 (平成 13 年 3 月) に「小さく始めて大きく育てる」をテーマにお話しいただき、今回「まごころ塾のみなさんへ」を演題として、都合 6 回目のご出講となりました。

初回からの塾生はもとより、その後入塾された方、また当日参加されたなど、51 人もの参加者があり、みな熱心に聴き入っていました。

慈父 鍵山秀三郎さんから塾生へのメッセージ!



▲読書と実践の人＝鍵山秀三郎さん。
下村湖人『青年の思索のために』を
巡ってのエピソードを披露。

塾長の内堀一夫先生とのご縁

内堀先生が長野小にお勤めの時、教育実習生の女性がイエローハット高崎店を利用された日のことです。激しい雨の降る夕方でした。店じまいをする頃にタイヤ交換に来られたようで、ピットはすでに閉められた状態でした。その方は、もう間に合わなかったかなと思いつつも頼んでみると、店員が申し受けたということです。カップを着て外での作業を終えて、

「お待ちどうさまでした。少し時間がかかってしまつて申し訳ありません。」

と、頭を下げる店員のカップから雨滴がザザーッと落ちるその姿に感激して、その話を内堀先生にされたようです。

それに感動された内堀先生が、私に手紙をすぐにくださったのです。私がお礼状を出すとすぐにまた内堀先生からご返信が届きます。そうして交流が始まったのです。

ですから、この「まごころ塾」は、たった 1 通の手紙がもとで始まったのです。そして今日は 80 回。人のご縁の不思議なことではあります。

内堀先生がご存命ならば、こうしてみなさんが塾を続けて広めてきてくださったことを、どれほど喜ばれていらっしゃるのでしょうか。

複写はがき

・・・6万8千通!

講演後、鍵山さんに複写はがきの通算枚数をお尋ねしたところ、

「新井先生、あと 12 枚で 68,000 通になります。」

と、さらりとおっしゃいました。はがきだけでも 6 万 8 千回も人を喜ばせていらっしゃるのだなあ、とまたもや敬服です!

非難を越えてなおその先に

ショーペン・ハウアーが、人の行動の正しさが証明されていく段階を説いています。

1. 嘲笑される（笑いものにされる）。
2. 激しい抵抗を受ける。
3. 大反対を受ける。

私は、昭和 36 年 10 月に独立し、自転車 1 台で創業しました。（私のことを自転車操業と喝破された方もいますが。（笑）掃除をし続け、心の荒みを除き良い社風を築く。少しでも良い世の中に近づけることを願って生きてまいりました。

「来るな」と水をかけられる。自転車を倒されるなど日常的に嫌がらせも受け、大きな騙しにも遭いました。さんざんな目に遭い、地を這いずり回るような人生を歩んできましたが、そうしたことがあったおかげで、今は、結果的に良い人生になったと思っています。

上記の 3 段階の後、正しさが明らかになっていくにつれ「そんなことは昔からわかっていたと、行動の正しさによりやく世間の人は同調」するのです。

ですから育英高校の荒井監督も、何年も誹謗中傷を浴びてきたでしょうが、優勝という結果が出ると、掌を返すような賞賛の声にあったことと思います。



▲最前列には荒井直樹監督（前橋育英高校野球部）。「凡事徹底」を実証してもなお、学び続ける。

手本にすべき人を心に住ませる

人の価値として最も大切なのは、後世の人に伝えるものを持っているか、ということだと思います。

「やろう！」と思うのは誰でもできます。実行は至難です。「できた」とします。「続ける」のはさらに難しい。そして、良いと思ったことを人に「伝える」のはいっそう困難です。

私の心には、西郷隆盛、孔子、晏嬰^{あんえい}「益はなくとも意味はある」をはじめ、たくさんの方がお手本としています。内堀先生も忘れ得ぬ人です。折々にその人に恥じない生き方をしようと心がけています。

やっておいて良かった

因果一如ということ忘れずにいたいと思います。良いことは少しずつ広め、悪いことは消したり小さくしたりするのです。10 年かかっても良いことならやり続けます。今結果が見えなくとも、放っておきません。81 歳になろうとする今、「やっておいて良かった」と思うことがずいぶんあります。

生きてて死んでいような人が多い中、
あなたは死んでもなお生きつづけています。

里みちこ（詩人）

お知らせ

第 81 回「まごころ塾」

・・・詳細は別途案内

日時：平成 26 年 9 月 27 日（土）午後 6 時 30 分 東部公民館 2 F 集会室

講師：里 みちこさん（大阪の詩人：鍵山秀三郎さんが著書に紹介されています）